

Title	Profiel (Abbe): Le martyrologe de l'Eglise du Japan, 1549-1649, Paris, 1895-7, 3 vol
Sub Title	
Author	吉田, 小五郎(Yoshida, Kogoro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.1 (1929. 3) ,p.155- 156
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290300-0155

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に駁がれて居る所謂共產主義の如きも、此の人間と地上との關係を無視した一點に於て、殆ど今日の思想ではないのである。歐洲十八世紀以後の思想上の層を知る者は、社會生活が、包括的に觀るべきでなく、個別的に扱ふべきであることを一度は心得て居るべき筈だ。遺傳の研究、個體心性の研究、及び之に附隨した各般の研究は、個體及び集團の特徴と環境との關係を少からず闡明して居る。同じく人間であるといひ、同じく東洋人であるといひ、同じく日本人であるといふだけで、その間に齟齬する個性的差異を滅却せんとする者は、二十世紀の世界の思想を知らない者だ。一個體としての日本民族の特徴を、他の民族の特徴と異ならしめた主なる環境力の一は、實に日本の山である。』(二二—二二頁)と、頗る味ふべきの言である。

本書は、要するに、大なる思想を小なる頁に横溢させたる近來の快著快文字であつて、所謂保守的國粹主義者、日本主義者の論説とは大に趣を異にするものがある。近代思想は本書に咀嚼せられ、言々句々、みな精魂を宿すが如くであつて、讀者をして思はず快哉を叫ばしむる底の著述である。代價僅かに三十錢。(間崎万里)

**Profillet (Abb3): Le Martyrologe
de l'Eglise du Japon (1549—16
49) Paris, 1895—7, 3 vol.**

書評欄は多く新刊書の批評紹介に充されてゐる。ところが之は

書 評

また餘りに舊刊に屬する。併し、何故かこの書はこの二三年來、私の目に觸れるベリーにある古本屋(多く東洋關係の書籍を扱ふ)の目録には毎回見かけ、價も四六判型假綴三冊もので僅か四五フラン(邦貨約四五圓)の極めて廉價であり、たゞ注文狀を發してといたものを見れば、何時も新しく折目が切れてゐない。(私は知人のために二部とつたが、兩部とも折目が切れてゐなかつた)されば、舊刊といふもの、得難き珍本といふ譯でなく、それが、時節柄便利な本であつて見れば、敢て紹介の勞をとるのも不可はないであらう。

題して『日本教會の殉教者列傳』といふ。著者プロフィール師のことに就いて詳しく知るところはないが、表紙の名の下に“ancien Annuaire de la Flotte et de l'Armée”と記してあるところより、何か陸海軍の御用宣教師をつとめたことのある人であることが知れる。

島原亂後、鎖國のために、日本の切支丹教徒と母教會との連絡は絶えてしまつた。ヨーロッパに於けるカトリック教國、殊に十七世紀以後政治的に有力となつたフランスは、常に所謂『公教會の復活』を望んで居つたので、その努力の一つのあらはれは日本の歴史や語學の研究となり、他のあらはれが幕末に於ける眞の『公教會の復活』を實現するに至つたベリー外國傳道協會の活動となつた。前者の日本歴史研究といふも、それは單なる歴史研究のための研究といふよりも、稀なる赫々たる日本の切支丹史迫害史殉教史を詳しく究めて心ある者の發奮を促さうとしたもの、如くであつて、その上はソリエー François Solier より、クラツセ

Jean Crasset シャルルボア Charlevoix マシウス Léon Pages と
いふやうな一連の日本史乃至切支丹史を見るのであるが、こゝに
述べる本書も、質はともあれ、その意圖に於て當然その一連に加
へて差支なきものと考へられる。

扱て本書の内容から見た體裁をいはう。章は四つに分れる。

第一章、聖人(Les Saints)一六二七年九月十四日教皇ウルバン
八世により福者の號をおくられ、更に一八六二年六月八日バイヤ
ス九世によつて聖人に列せられたる殉教者二十六人の傳記

第二章、福者(Les bienheureux)一八六七年七月七日、教皇バイ
ヤス九世によつて福者の列に加へられたる殉教者二〇五人の傳
記。

第三章、尊者(Les vénérables)未だ教皇により、聖人福者の列に
加へられた譯でなく尊者とする沙汰があつた譯ではないが、特に
我々が敬意を表して尊者となす殉教者一二四三人の傳記。

第四章、信者(Les Fieux)即ち若干の信仰の告白並に奉仕や徳
をもつて舊時の日本の教會を輝かしめたる敬虔なる信者二八〇人
の傳記。

大冊以上の聖人、福者、尊者、信者、合計一七五四人分の傳記
を材料の多少により或は詳細に或は簡略に記述し、各冊の卷末に
索引が附してあるから、之によつて切支丹史上著はな殉教者の傳
記を大體知ることが出来る。

その材料となつた主なるものは一、ソリエー、クラツセ、シャ
ルボアの切支丹史、二、ドミニク・バルトリニ Dominique Bal-
dini の「二十六聖人及びミツシエル・デサンクナスが諡聖に關す

る文書」、三、耶蘇會士なるボエロ師 P. Boero が「一八六七年教
皇バイヤス九世により福者に列せられたる日本の殉教者二〇五人
の略傳」、四、聖アゴスチニヨ會の宣教師ジョセフ・シカルド P. To-
phi Scardo の「日本の基督教徒」並に五、レオン・マシウス Léon
Pages の「日本基督教史」である。著者はいつてゐる。なほ著者
は諸教會の文書館や各國の國民圖書館殊にリスボン、マドリッド、
ローマのそれには日本の教會史に關する貴重な文書記録の存する
ことは知つてゐるが、何分にもよる年波と不肖との爲に思ふに任
せず、従つて先に記したやうな比較的手近に在つて而も權威ある
著書による外なかつたと言斷つてゐる。かくて序文の最後を次の
言葉で結んだ。

ともあれ、我が望むところは、この殉教者列傳が、或讀者に對
し、幸に未知の世界を提供し、且つ日本の新しき教會のみとい
はず、その昔、我等が禮讚してをかね幾多の宣教師並にかの聖
フランシスコ・ザビエーに教を受けた日本國民に對し眞摯にし
て熱誠なる興味を彼等に鼓吹せんことを只管希ふものである。
不肖といひ寄る年波といふも四六列三卷千五百頁に垂んとする
この大冊は、必ずしも學術的研究の伴侶とするに堪へずとするも、
著者の望むところは充分果されるであらうし、又、この方面に心
ひかる、仁にとつては平生座右に備へて便利を惠まれること少く
ないであらう、敢てあらう紹介する所以である。

(吉田小五郎)